

会議名	令和８年度 第３回佐久市社会教育委員会議		
期 日	令和８年８月２７日（木）		
場 所	佐久市市民創錬センター 大会議室		
開 始	午後２時５８分	閉 会	午後４時５分
出席者	【委員】 原英正委員長、依田とく代副委員長、大塚寛美委員、奥村繁子委員、岩井佑樹委員、中澤功委員、清水由実子委員、小林英明委員、和光智恵子委員、滝澤良淳委員、重田みどり委員、小山里美委員 【事務局】 生涯学習課長木下、課長補佐武者、生涯学習係長玉置、社会教育指導員伴野・浅沼・吉澤 【オブザーバー】 学校教育課小林		

１ 開 会 依田副委員長

２ あいさつ 原委員長

令和8年8月25日開催の佐久地区社会教育委員連絡協議会理事会に理事として出席。佐久市はこれまで居場所づくりについて取り組んできたことを報告。令和8年9月3日開催の長野県社会教育研究大会では第1分科会事例発表を機に新たな展開、また、いろいろなことを学びたい。12月以降、社会教育委員だより「そよかぜ」第14号の制作に入る。

３ 会議事項

（１）佐久市教育振興基本計画（素案）について

事務局：次期「佐久市教育振興基本計画」の素案について、社会教育分野の基本理念や「学びの自走者の育成」等の重点施策に関する説明

委 員：「学習」はハードルが高く感じられるが、「学び」と表現することで、より広い活動を包含できるのではないか。また、若い世代が公民館を「高齢者の場所」と感じ、アクセスしづらい現状があり、今後、アクセスを工夫する。

委員：安心感、自己肯定感、安心できる場所、土台をしっかりとつくる。それがスムーズに成長する子ども達に育っていく。今までの活動の中で居場所ということを取り組んできて、何かそういうことがもっと大事だと思う。

委員：外部講師の高齢化や、地域から学校へアプローチする際の「入り口の分かりにくさ」が課題となっている。

委員：図書館や公民館も来館数だけが成功指標ではない。自分時間を有効に使いたい若者向けにアーカイブやオンライン講座が必要である。会場のキャパシティ問題を解消するためにも場所を選ばない学びの提供は有効である。

委員：デジタル推奨の目玉としてイベントや講座の動画保存・配信は費用もかからず、良い手段となる。

委員：具体的な主な取組に、本市にゆかりのあるトップアスリートとの交流についてスポーツの所に載せるのであれば、文化芸術の所にあってもよい。

委員：不登校支援、コミュニティスクールの横の連携会議、子育て支援カードなど、これまでの取組が、学校教育分野の計画の中のこの辺で読めそうということがあれば一番よい。

委員：人権・同和教育の項目における対象者の並列表記について留意する。

委員：伴走支援の重要性や、ゴールである「ウェルビーイング」について可視化する。

事務局：今後においても、いろいろな立場からいろいろな意見を寄せていただきたい。

（２）令和８年度活動計画等について

社会教育委員会議、佐久市教育振興基本計画策定に関する諮問に対する答申、社会教育委員日より第14号発行、生涯学習に関するアンケート調査の実施、東信地区社会教育委員活動情報誌の作成、長野県生涯学習センター令和8年度開催講座案内等を説明（了承）

（３）その他

令和7年度社会教育団体への補助金交付実績及び令和8年度補助金交付計画を説明（了承）

4 その他

令和8年10月23日開催の令和8年度子どもが育つ地域共育フォーラム兼学社連携共同意見交換会
参加意向分科会の回答を依頼、令和8年9月3日開催の令和8年度長野県社会教育研究大会第1分科会
「今後における社会教育委員の活動」話題提供当番としてリハーサルを実施（了承）

5 閉 会 依田副委員長